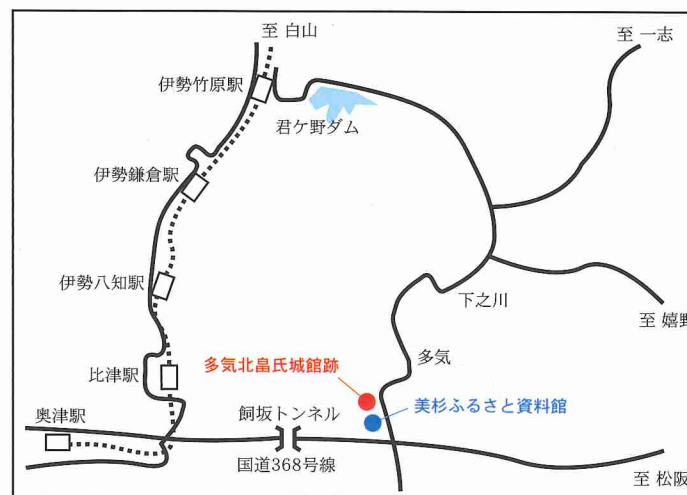
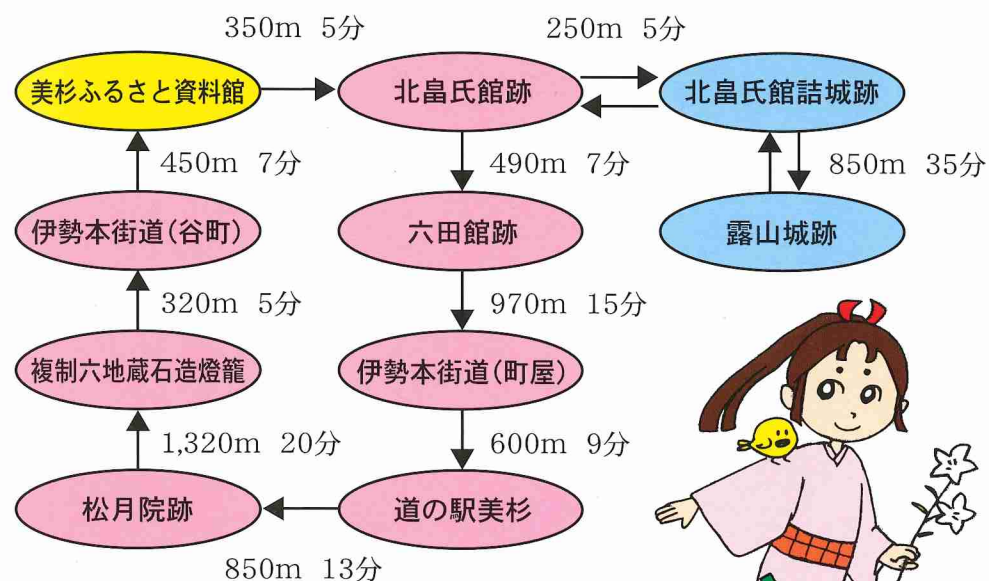


多気歴史散策マップ



モデルコース

標準時間 約2時間（全行程約5.4km）
※霧山城跡まで行く場合は、片道約40分

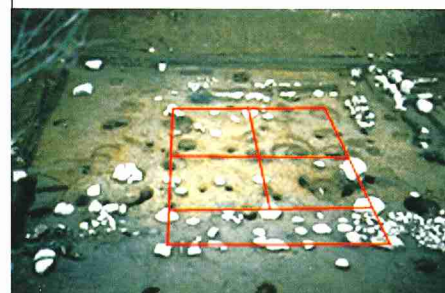


津市教育委員会

北畠氏館跡

④ 礎石建物

館跡からは、礎石建物と呼ばれる石の上に柱を建てる構造の建物が数棟確認されています。写真の建物は、面積は小さな建物跡であるにもかかわらず、礎石を使うという構造から格調の高い建物であったと考えています。



③ 石垣

北畠氏館跡では、上段と中段の境に石垣が設けられていました。発掘調査で高さ約2.6m、長さ約28mに亘って確認されました。石垣は館跡上段を特別な場所として、より厳かに見せるためであると考えられています。

② 入口跡

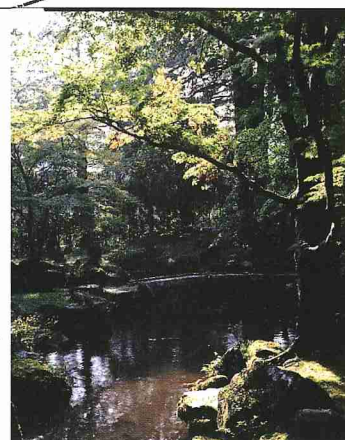
北畠氏館跡では、上段と中段の境に石垣を築いていることが分かっていますが、館跡のほぼ中央にあたるここから石垣に取り付く入口跡が見つかっています。館の上段への大手口と考えられています。



○数字は館内に設置してあるサインスタンドに対応

① 北畠氏館跡庭園

当代庭園中屈指の作として全国的に著名で、埋もれずに残っていたものとしてとても貴重なものです。池泉は複雑な形をして、東側には立石枯山水が組まれています。発掘調査の結果、池は16世紀代に造られたことが分かりました。



北畠神社

北畠氏館跡庭園

霧山城跡

標高約560mの山頂、経ヶ峰、堀坂山などの連山を望む天険の地に築かれた北畠氏の本城です。興国3年(1342)に玉丸城が陥落すると、北畠氏はこの多気の地に移り、その後築城されたものと考えられています。伊勢国司8代の根拠地となりましたが、天正4年(1576)具教が三瀬館で亡くなると、織田軍が多気の城下を焼き、霧山城を攻略し、廃墟となったといわれています。



これより霧山城跡まで
850m

北畠氏館詰城跡

詰城跡は、北畠氏館跡の裏山の尾根上に立地し、館跡との比高差は約80mあります。頂部にある東西35mほどの平坦な曲輪が中心であり、その周りに帯曲輪や堀切などで防御されています。

美杉ふるさと資料館

美杉町地域の歴史・文化財を紹介しています。展示室では人間と歴史のかかわりあいをテーマに、各時代における文化の知恵、生活の知恵、遊びの知恵を体感できるようになっています。またかつてこの地を拠点に伊勢を治めた北畠氏関係の資料や発掘の成果も展示しています。



伊勢本街道(谷町)

伊勢本街道は、大和と伊勢の要所として栄え、神宮を目指す多くの参宮客が上古から往来し、宿場として明治時代中期まで大変栄えました。特に南北朝時代から戦国時代には北畠氏が城館を構えたため、より街道は重要なものとなりました。旧宿場町に残された道標や常夜燈、古い町並みがかつての姿を今に伝えています。



複製六地藏石造燈籠

清光寺南方の共同墓地内にある燈籠で、石材は大洞石です。火袋部の舟形中に刻まれ六地藏の手法も丁寧で、台座と蓮花と反り花の2段になっています。



六田館跡(東御所跡)

北畠神社から八手俣川を挟んだ対岸にある台状地が東御所跡と呼ばれていて、その周囲には堀跡が確認されています。



六田から北畠神社を望む。付近には古い地割りが良く残る。



伊勢本街道(町屋の家並み)

飼坂から多気の谷町、町屋までは緩い下り坂でカラー舗装されています。谷町までの道筋には旧家が建ち並んでいて、その構えや千本格子の土蔵など当時の風情をそのまま残しています。



北畠氏遺跡の発掘調査で見つかった敷地を区画する石列



道の駅美杉

木のぬくもり、木の香、やすらぎのひとつが楽しめます。人に優しい純木造建築の『道の駅』です。バリアフリーで、休憩施設には和室があります。緑地広場からは、中世期に栄えた美しい北畠の里が一望できます。



松月院

八手俣川の上流部にある寺院跡です。中央に大きな平坦地があり、本堂跡とされていて、石垣が残っています。本堂の東側には、東堂跡や墓域が確認され、そこには五輪塔や石地藏が残っています。